

(5) 防犯について

西宮市では、市民のみなさまの安全・安心のため、各種団体や自治会等ボランティアの方々が推進されている多様な地域防犯活動を支援しています。また、西宮市の防犯活動の一環として、安全・安心パトロールカー（青パト車）で地域を定期的にパトロールしています。

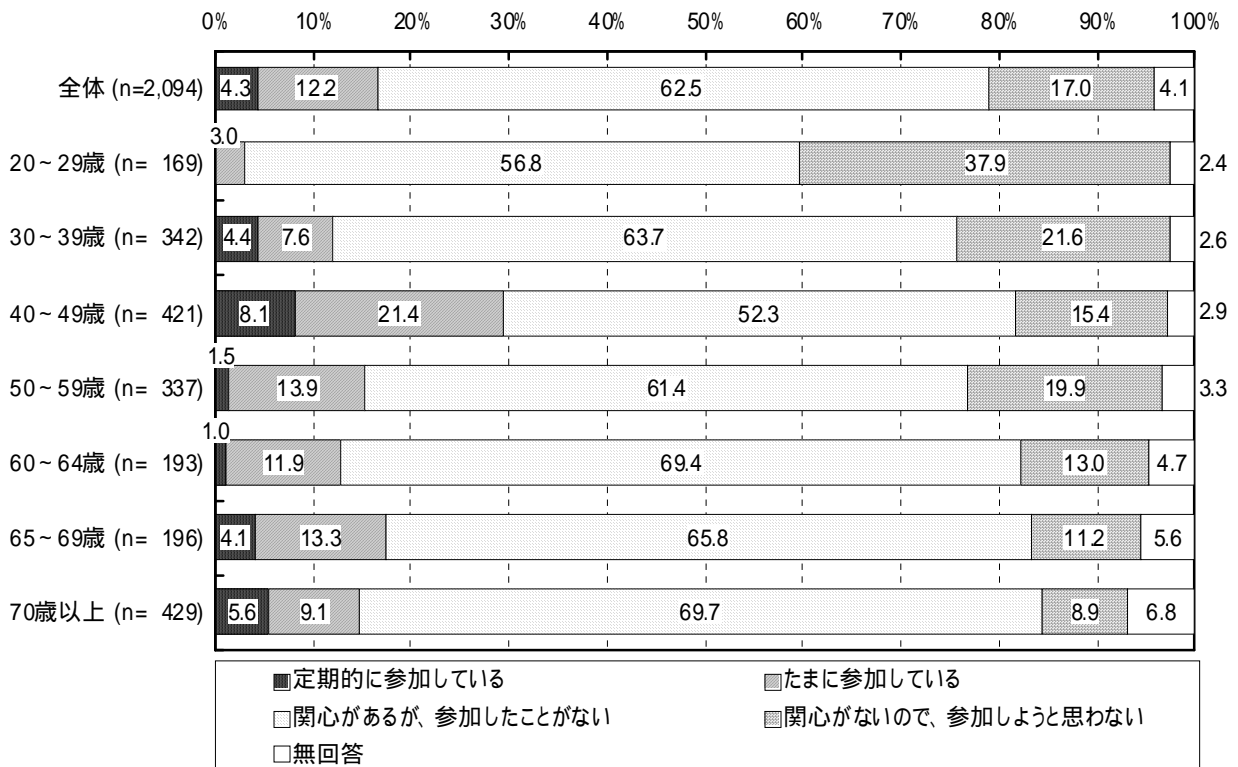
地域防犯活動への参加状況

問26 自治会や防犯協会などの地域ボランティア団体による防犯パトロール、子ども見守り活動など、地域防犯活動に参加したことがありますか。（1つ選んで）

地域防犯活動に関心がある人が8割。

- ・地域防犯活動への参加状況について、「定期的に参加している」「たまに参加している」「関心があるが、参加したことがない」を合計すると、79.0%が関心を示しており、実際に活動している人は、「たまに参加している」が12.2%、「定期的に参加している」が4.3%となっている。
- ・年代別にみると、40～49歳で、実際に活動している人が29.5%と多くなっている一方、20～29歳では関心のない人が37.9%と多くなっている。

地域防犯活動への参加状況



青パト車によるパトロールの周知度

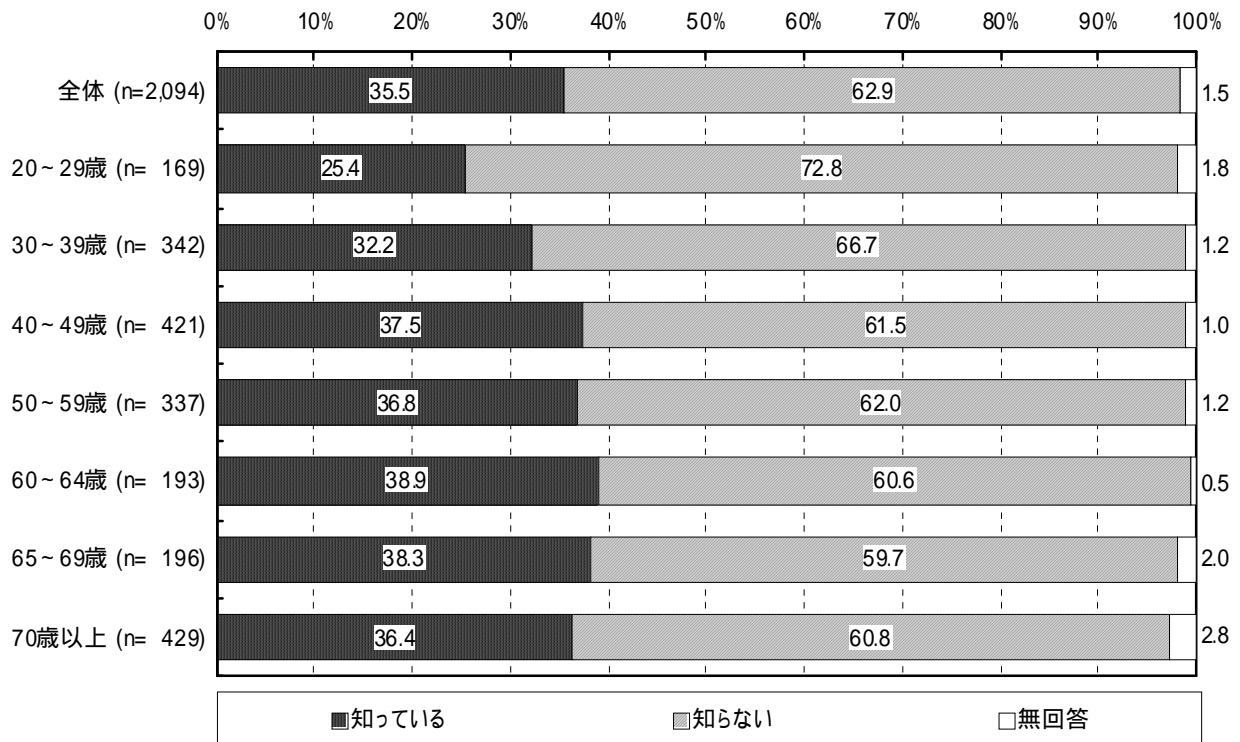
問27

市職員が運転する青パト車は「ひったくり」「還付金詐欺」に注意などの広報テープを流しています。また、地域ボランティア団体の方も同乗し地域と一体で行っています。あなたは、このような青パト車によるパトロールを知っていますか。(1つ選んで)

青パト車によるパトロールを知っているのは約4割。

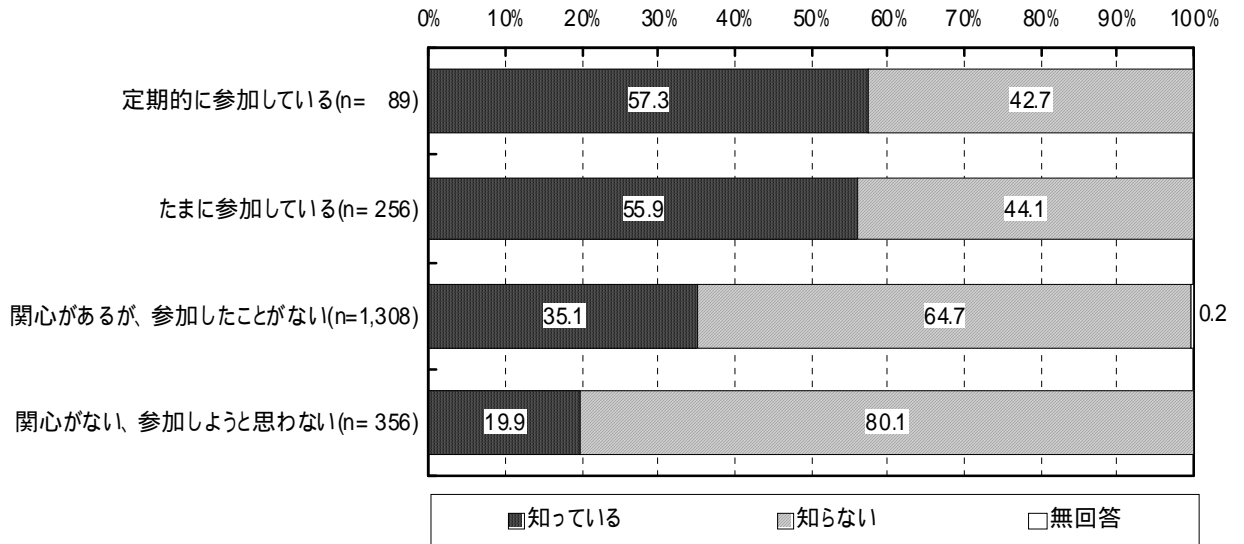
- ・青パト車によるパトロールについて、「知っている」は35.5%となっている。
- ・年代別にみると、20～39歳では「知っている」が少なくなっている。

青パト車によるパトロールの周知度 《年代別》



- ・地域防犯活動への参加状況別にみると、「定期的に参加している」や「たまに参加している」という人では半数以上が「知っている」と答える一方、「関心がないので、参加しようと思わない」では「知らないが」が80.1%を占める結果となっている。

青パト車によるパトロールの周知度 《地域防犯活動への参加状況別》



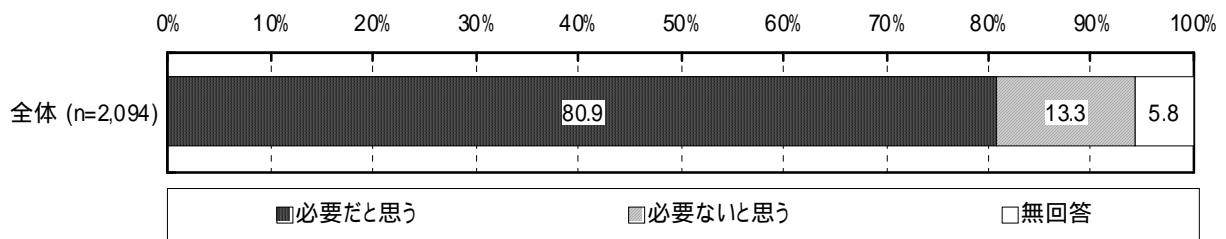
防犯活動において青パト車は必要か

問28 防犯活動において青パトは必要だと思いますか。
(1つ選んで)

青パト車を必要と考えている人は8割。

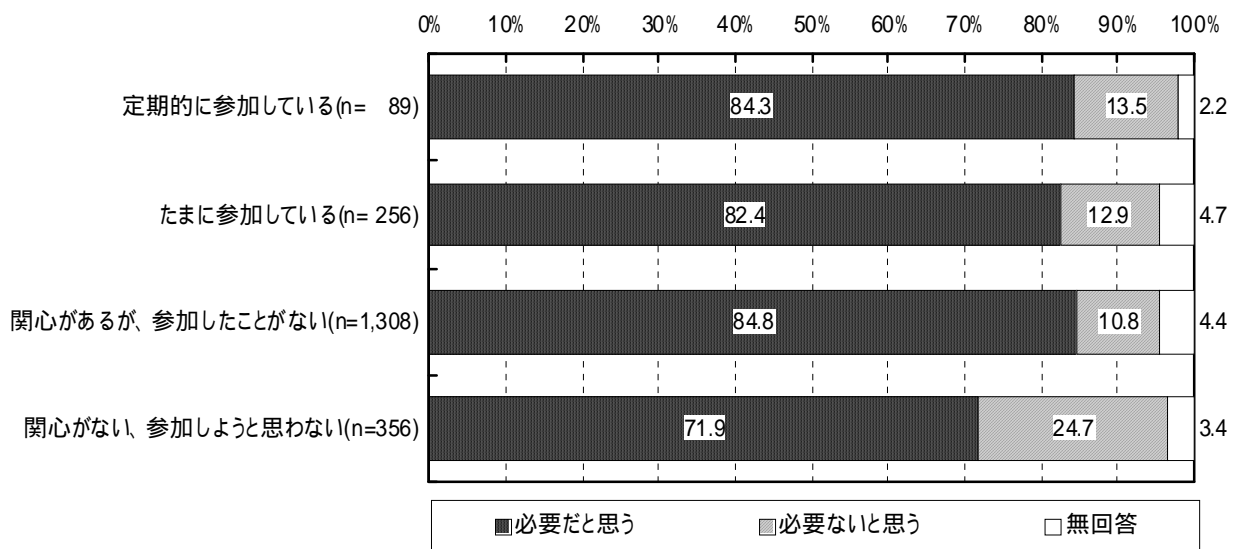
- ・ 防犯活動において青パト車は必要かについて、「必要だと思う」は80.9%となっている。
- ・ 年代別にみると、40～49歳では「必要だと思う」がやや多くなっている。

防犯活動において青パト車は必要か 《年代別》



- ・ 地域防犯活動への参加状況別にみると、「関心がないので、参加しようと思わない」という人では「必要ないと思う」が24.7%と多くなっている。

防犯活動において青パト車は必要か 《地域防犯活動への参加状況別》

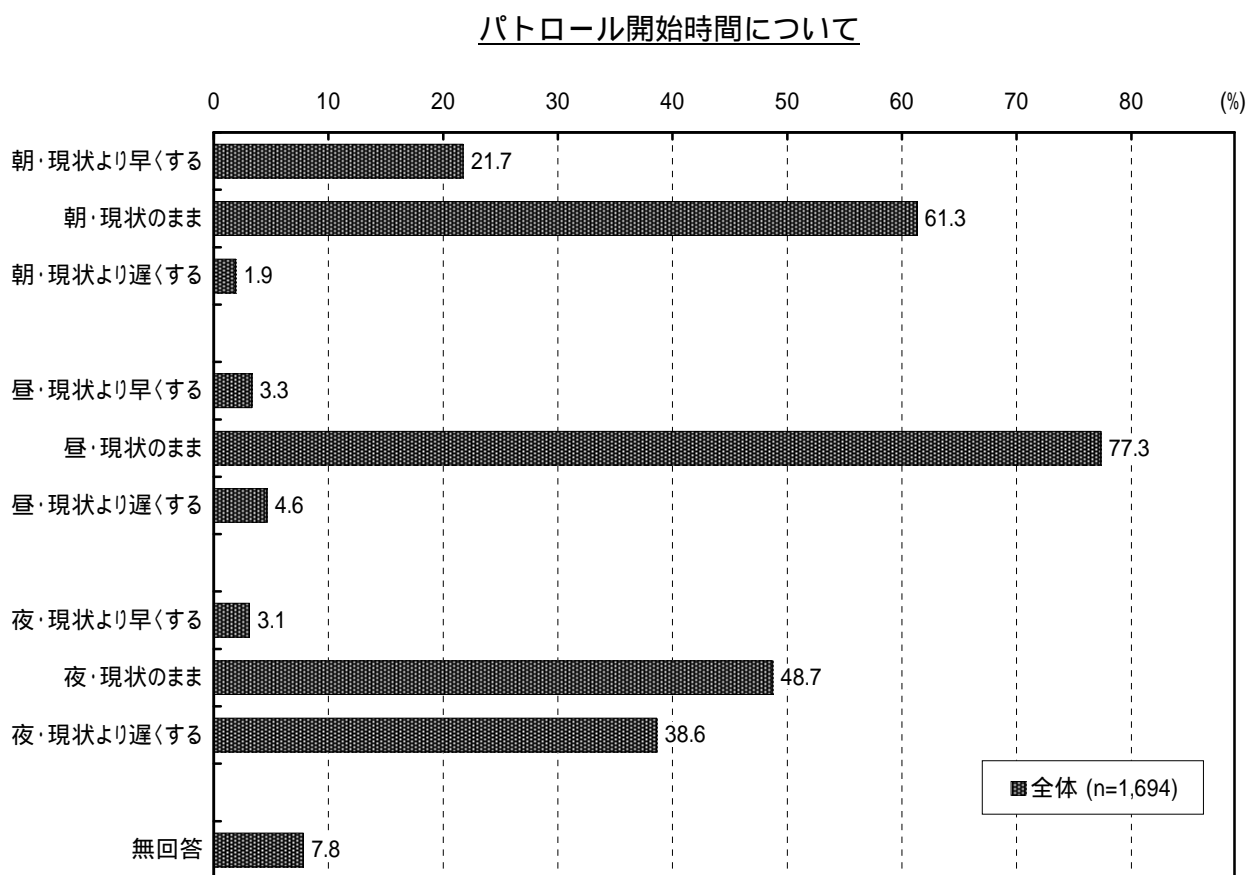


パトロール開始時間について

問29 パトロール開始時間についてどのように思いますか。
 (朝、昼、夜でそれぞれひとつ選んで)

パトロール開始時間は現状のままがよい。

- ・パトロール開始時間について、朝・昼・夜のどの時間帯においても現状のままが最も多く、それらに次いで「夜・現状より遅くする」が38.6%、「朝・現状より早くする」が21.7%などとなっている。



青パトの1週間の運行スケジュールは、平日(月曜～金曜)に1回2時間程度を原則として、下表の通り実施しているものを基準とする。

時間帯	回数
朝(9:30～11:30)	週3回
昼(14:30～16:30)	週5回
夜(18:30～20:30)	週2回

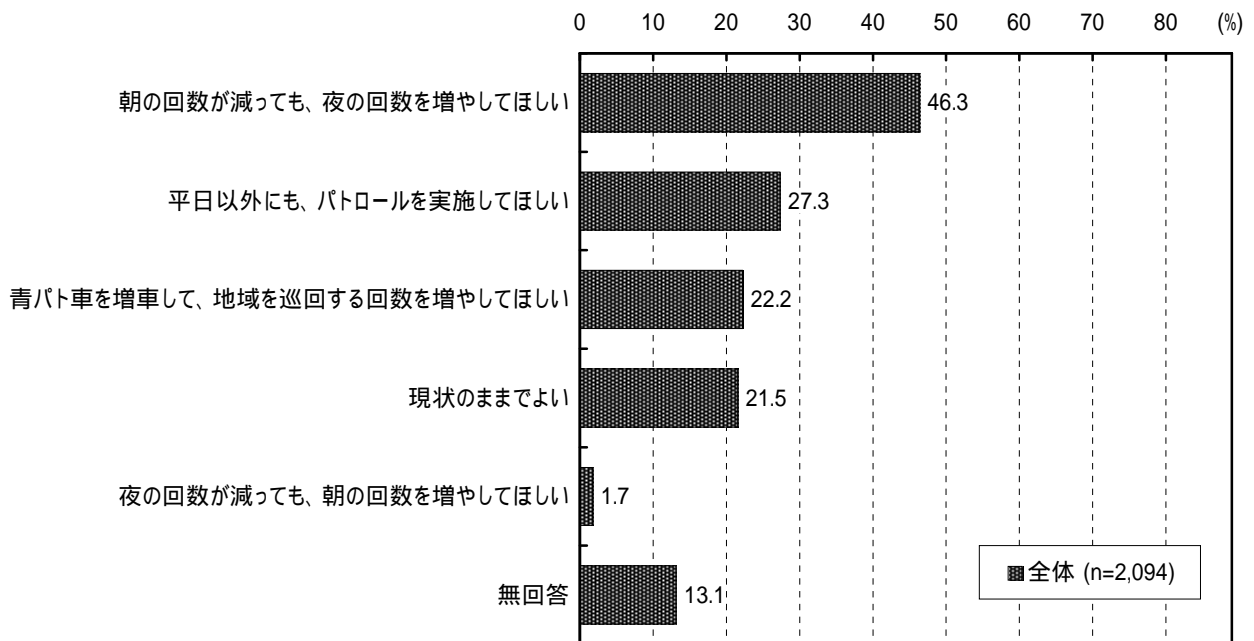
パトロール回数について

問30 パトロール回数についてどのように思いますか。(あてはまるものをすべて選んで)

夜間のパトロール強化を求める声が多い。

- ・パトロール回数について、「朝の回数が減っても、夜の回数を増やしてほしい」が46.3%と最も多く、次いで「平日以外にも、パトロールを実施してほしい」が27.3%、「青パト車を増車して、地域を巡回する回数を増やしてほしい」が22.2%、「現状のままでよい」が21.5%などと続いている。

パトロール回数について



施策に向けての一言 < 防犯について >

近年、市民生活の安全への関心が高まっているが、市民の地域防犯活動への参加や関心はどのようであろうか。問 26 は自治会や防犯協会などの地域ボランティア団体による防犯パトロール、子ども見守り活動など地域防犯活動への参加状況を尋ねている。「定期的に参加している」が 4.3%、「たまに参加している」が 12.2%と参加状況は低いものの、「関心があるが、参加したことがない」が 62.5%にも達している。この層を動かすことが参加度を高めるうえで重要のように思われる。年代別では、20-29 歳で参加度はきわめて低く、「関心がないので、参加しようと思わない」が 37.9%もある。設問は自治会や防犯協会など地域ボランティア団体による防犯活動であり、若い層にはやや遠い存在になっているかもしれない。若い層への啓発が必要であろう。

問 27 は青パト車によるパトロールの周知度を尋ねている。全体では、「知っている」35.5%、「知らない」62.9%と周知度は低いといわざるをえない。青パト車によるパトロールの周知度は、地域防犯活動への参加状況別にみると特徴的傾向が出ている。「定期的に参加している」層では、「知っている」が 57.3%にもなっている。これに対して、「関心がない、参加しようと思わない」層は「知っている」が 19.9%、「関心があるが、参加したことがない」が 35.1%である。青パト車によるパトロールの周知度は地域防犯活動への参加の度合いと関連していることがわかる。

青パト車によるパトロールの周知度は低いが、必要度について市民の意識はどのようであろうか。問 28 の回答では、全体で 80.9%が「必要と思う」としている。必要度の認識はきわめて高いといえよう。興味深いのは、年代別でみると、「必要だと思う」が 20-29 歳で 81.7%、30-39 歳で 81.9%、40-49 歳で 86.0%と全体平均よりも高くなっている。若年層で必要度の認識が高くなっているのである。地域防犯活動への参加状況別でも、「定期的に参加している」層で「必要と思う」が 84.3%と高いのは当然としても、「関心がない、参加しようと思わない」層でも「必要だと思う」は 71.9%もある。必要性の認識は高いのであり、維持していくためにも地域防犯活動への参加の拡大が望まれる。

青パトによるパトロールの必要度の認識は高いが、パトロールの開始時間やパトロール回数についてはどのように認識されているのであろうか。問 29 ではパトロール開始時間について尋ねている。回答では、「昼・現状のまま」77.3%、「朝・現状のまま」61.3%、「夜・現状のまま」48.7%、朝・昼・夜とも現状のままが多くなっている。ただし、夜については、「夜・現状より遅くする」が 38.6%あり、夜遅い時間帯のパトロールを求める声があることを示している。現状では、夜は 18:30-20:30 分の間に週 2 回だけであり、検討すべきであろう。

開始時間への要望は、問 30 のパトロール回数についての設問からもうかがうことができる。「朝の回数が減っても、夜の回数を増やしてほしい」が 46.3%で最も多い。続いて、「平日以外にも、パトロールを実施してほしい」27.3%、「青パト車を増車して、地域を巡回する回数を増やしてほしい」22.2%となっている。夜遅い時間帯や回数の増加など青パトによるパトロールへの要望がうかがわれるが、ただしそれを実現するためにはより多くの市民の参加が必要であり、そのための啓発や呼びかけ努力が求められている。

(関西学院大学 森脇俊雅)